

はじめに

構造地質学は層序学とならんで、野外調査にあたって最も基本的な分野である。構造地質学が対象とする地質構造は、顕微鏡サイズから人工衛星によって認識できる規模まで広範囲にわたる。また、広い意味で地殻変動・造山運動を扱う「テクトニクス」分野も含んだものを構造地質学ということもある。本巻は、露頭で認められる構造を対象として、野外で地質構造を認識・解析するための基礎知識を与えるものである。また、構造地質学で必要とされる応力や歪といった基本的概念についても、初学者にとって必要最小限解説する。なお、本格的なテクトニクスについては本書では扱わない。

本書が対象とする読者は、構造地質学をはじめて学ぶ学部学生、現場において構造地質学の知識を必要とする技術者、野外調査をはじめたばかりのアマチュアの方々などである。野外で実際に露頭を観察する際に必要な最低限の基礎的な概念と知識を提供し、将来、本格的に構造地質学を学ぶための入門書をめざして執筆した。なお、執筆は天野と狩野が全項目について共同して行った。

本シリーズの第7巻「変成・変形作用」においては、変形岩類を対象として微細構造の解析法が紹介されている。この第6巻とあわせて読むことにより、顕微鏡サイズから露頭サイズの地質構造について、基本的な知識を得ることができる。また、地表付近の変形から地下深所における変形について、全体的な理解が得られるよう構成されている。より詳しく構造地質学を学習するためには、垣見・加藤(1994)、狩野・村田(1998)、植村(2000)などをお薦めする。日本列島の研究が世界に大きな影響を与えた付加体の構造地質

解析およびテクトニクスについては第5巻「付加体地質学」を参照されたい。テクトニクスの基本を学びたい方は、日本列島のテクトニクスを中心に解説されている木村（2002）が参考になる。

本書をまとめるにあたり秋山雅彦フィールドジオロジー刊行委員長には、励ましとともに、原稿の校閲をいただいた。また、共立出版の横田穂波氏には、叱咤激励をいただくとともに編集上たいへんお世話になった。茨城大学理学部宮下芳教授には、原稿の一部にコメントをいただいた。茨城大学工学研究科大学院生の松原典孝氏には図の作成にご協力いただいた。ここに深甚なる感謝の意を表したい。